

令和4年度第2回 仙台市立病院経営評価委員会議事録

- 1 日 時 令和5年3月20日(月) 18:00~19:08
2 会 場 仙台市立病院 3階第3会議室
3 出席者 藤森研司委員長
今西陽一郎委員、島村弘宗委員、矢川昌宏委員、大和一美委員(委員5名)
亀山病院事業管理者、奥田院長、菅原理事、伊藤次長(兼)経営管理部長、小椋健康福祉局保健衛生部長、佐々木看護副部長、堀江経営医事課長、高橋財産管理課長、福井総合サポートセンター副センター長、菅原経営医事課主幹(兼)財務収納係長、吉野企画医事係長、佐藤健康福祉局医療政策課医療政策係長、荻原財務収納係主任、渡邊診療情報管理士、倉本診療情報管理士

欠席者 鈴木信子委員

4 次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 報 告

(1) 令和5年度予算について

4 議 事

(1) 仙台市立病院経営計画進捗状況(2022年4月~12月)について

5 そ の 他

6 閉 会

5 配付資料

- 資料1 令和5年度予算について
資料2 仙台市立病院経営計画進捗状況(2022年4月~12月)
資料 公立病院経営強化プランの策定について

<議事概要>

(1) 開会

(2) 挨拶

亀山事業管理者から挨拶。

(3) 報告

- ・会議公開の確認
⇒異議なし(傍聴者1名)。
- ・議事録署名委員を今西委員、島村委員に依頼。
⇒了承。

① 令和5年度予算について

(事務局から資料1を説明)

(質疑応答)

【矢川委員】

減価償却費に経常損益を加えた経常キャッシュフローについてR3年度は31億8,200万円、R4年度は5億1,800万円、R5年度は△3億5,300万円となっている。純資産はR3年度が72億1,200万円、R4年度は70億2,100万円、R5年度は59億5,500万円となっている。現金預金と企業債現在高の数値を載せたことは非常に良いと思う。企業債現在高から現金預

金を引いたネットのローンは R3 年度が△158 億円、R4 年度が△140 億円、R5 年度が△141 億円となっている。ネットのローンを返済する原資たる経常キャッシュフローで割って債務償還年数を算出すると R3 年度は 4.97 年、R4 年度は 27 年、R5 年度はマイナスとなる。これは一時的なものであり、当然改善されると思うが、公営企業は債務償還年数及び経常キャッシュフローが 2 年続けてマイナスになるか債務超過になった場合は継続企業の前提に疑義があることとなり、注記の対象となる。この場合、こういったことを解消するためにこういう対策をしますという説明をする責任がある。いわゆるアカウントビリティ責任というものである。R5 年度はかなり厳しくなるのでそこを考慮して R6 年度に向けて対応された方がよいと思う。

【今西委員】

令和 5 年度の予算の総延入院患者数が 147,900 人となっており、1 日平均に換算すると、約 405 名となる。令和 4 年度は、2 月、3 月は患者数が 400 名を超えているものの、その他の月は 400 名を超えていない。また、予算では入院患者 1 人 1 日当り診療単価が 77,472 円となっているが、今年度の実績としては、80,000 円を超えている。実態としては、患者数が予算より、少し抑えられ、診療単価が高くなるのではないかと考えている。結果的に医業収益は予算通りになると思う。

【藤森委員長】

入院診療単価を下げた理由は何か。

【事務局】

新型コロナウイルス感染症患者受け入れに伴う診療報酬の臨時的取扱により、診療単価が上昇しているところもあるため、そういった影響を加味した予算としている。

(4) 議事

① 仙台市立病院経営計画進捗状況（2022 年 4 月～12 月）について

（事務局から資料 2 「3 本計画の進捗状況 課題①」を説明）

（質疑応答）

【島村委員】

「救急車応需率」に関しては、仙台医療センターも応需率が中々上がらない現状である。救急車の受入れには尽力しているが、発熱患者の対応や、救急搬送依頼が増加しているため、受入れが難しい場合もある。5 月 8 日以降、新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行した際の動向は注視していきたい。

【事務局】

指標には“(応需)率”を使用しているが、再考した方がよいか悩ましいところである。当院は、2022 年も県内トップの救急搬送患者の受入れをしているが、応需率に換算すると高くはない。やはり、依頼数が増加しているため、「応需率」より「受入数」を評価すべきか悩ましい。

【藤森委員長】

救急搬送患者の受入れを行う病院のキャパシティの問題もあると思う。その他の指標に関連して、仙台市医師会では、何か施策等あるか。

【大和委員】

「外来栄養食事指導件数」に関して、実績が伸び悩んでいるように見えるが、仙台市 CKD 病診連携モデルが始まっており、仙台市においては病院の医師や開業医から期待が大きい事業となっている。貴院の「外来栄養食事指導件数」を伸ばしていく取り組みを進めていただき、当該事業を中心となって牽引してほしい。

【藤森委員長】

オーダーが少ないのだろうか。それとも、キャパシティがすでにいっぱいの状態なのか。

【事務局】

管理栄養士の職員数も限られているため、キャパシティも影響している。

【藤森委員長】

ロボット支援手術機器の導入について、手術件数の年間想定はどの程度か。

【事務局】

現在、試算を行っている。まず、手術対象患者には、ロボット支援手術機器を使用した手術、腹腔鏡下手術等の選択肢を提示するが、ロボット支援手術機器を使用した手術を希望される場合は、他院へ紹介せざるを得ない状況である。

【藤森委員長】

ロボット支援手術機器を使用した手術の採算性を研究している東北大学院生がいる。東北大学の場合で、180件から200件の手術をしないければ採算が取れないということらしいが、難しい件数である。採算性の確保は難しいかもしれないが、病院の看板として進めていただければと思う。

【事務局】

患者確保の面だけではなく、医師の確保という面からも進めなければ、今後医師が集まらなくなってくると思う。

【島村委員】

仙台医療センターは「ダヴィンチ」というロボット支援手術機器を1台導入しているが、導入当初は泌尿器科が多く手術をしていたが、外科における直腸、結腸、胃の領域や呼吸器外科、産婦人科領域も手術適応が広がり、現在では、各科で「ダヴィンチ」取り合い状態となっている。2台目のロボット支援手術機器購入を検討し始めている。

① 仙台市立病院経営計画進捗状況（2022年4月～12月）について

（事務局から資料2 「3 本計画の進捗状況 課題②」を説明）

（質疑応答）

【今西委員】

患者数は新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいたが、令和4年度はV字回復と言ってもいいと思う。また、先ほどもお伝えしたが、入院診療単価が80,000円を超えているため、とてもいい状況である。今後は、「がん診療体制の強化」を目標として挙げているように、化学療法室の拡充が重要になってくると思う。がん患者増加に伴う、外来注射料が年々増加しているため、収益という意味ではポイントになってくる。

さらに、今後、白内障は外来手術が増加してくることが予想されるため、院内の対応を考えていく必要がある。

【矢川委員】

「戦略Ⅱ-4：費用の抑制を図る」について、購入委託業者によるスケールメリットとはどのようなものか。

【事務局委員】

購入委託業者は全国規模の会社で購入対象の間口が広く、一括で大量に購入しているため、そのスケールメリットで低価格で仕入れることが可能となっている。

【矢川委員】

他病院平均購入価格のデータは全国自治体病院協議会のものか。

【事務局】

その通りである。

【藤森委員長】

指標の「手術室稼有効活用率」の算出定義を教えてください。

【事務局】

確認する。

① 仙台市立病院経営計画進捗状況（2022年4月～12月）について

（事務局から資料2 「3 本計画の進捗状況 課題③、課題④」を説明）

（質疑応答）

【島村委員】

Facebook の運用はどこの部署で管理しているのか。

【事務局】

総務課で管理を行っている。

【矢川委員】

仙台市立病院は他の公立病院と比べ紹介率、逆紹介率が高い。伝統的なものだとは思いますが、これは何か秘訣はあるのか。

【事務局】

秘訣というほどのものはない。五橋に病院があったころから地域医療支援病院に認定されるために紹介率・逆紹介率を上げなければいけないという事情がある。あすと長町に移転した後は小児科を除く外来は原則紹介制を導入し、様々な地域の医療機関への働きかけによって徐々に上がってきて現在に至っている。矢川委員がおっしゃるように確かに現状、紹介率・逆紹介率は高いが、入院期間が短くなってきており、DPCにおけるⅠ・Ⅱの期間に収めるために逆紹介率を上げる努力を常に行っていく必要がある。

【大和委員】

「具体取組Ⅳ-2 働きやすい職場、働きたいと思える病院づくり」に関して、院内保育所を利用している方を対象とした「きょうだい割引」という取り組みが素晴らしいと思う。人材確保の面から有効だと思うが、病児保育、病後児保育を行っているか。また、業務委託していると思うが、保護者から要望等あった場合の病院側の関りについて教えてほしい。

【事務局】

病児保育、病後児保育も行っている。委託業者との打ち合わせも定期定に行いながら、連携を図り、保護者から要望があれば、対応できるよう努めている。しかし、まだ、看護師へ浸透しきれていない部分もあり、利用率は高くはないため、利用者の拡大を図りたい。

【藤森委員長】

大和委員の質問に関連して、職員満足度調査における「仙台市立病院でこれからも働き続けたいと思う。」の指標について、目標値が3.5ポイントとあるが、低いのではないか。

【事務局】

高度な医療を提供するにあたり、技術的に不安を感じるという声や、夜勤帯の人員が少ない中で、患者を受入れなければならないといった面で不安を感じているという声が聞こえてくるため、そういったところが影響している。

【藤森委員長】

対策は講じているか。

【事務局】

若手看護師のみで夜勤を行うことを避けるため、ベテラン看護師と、若手看護師が組める勤務体制を考慮している。また、技術向上を図れるような研修を企画し、実施している。

【藤森委員長】

病院が職員を大切にしているということが伝わるところが重要だと思う。

【今西委員】

「具体取組② 地域連携パス対象疾患拡大の検討・実施」について、貴院における平均在院日数の全体は約10日前後であるが、誤嚥性肺炎、大腿骨頸部骨折における平均在院日数はどちらも約30日前後と長い。地域の医療機関や施設等との具体的なルールの取り決めが重要であると思うので、進めてほしいと思う。

【藤森委員長】

大腿部頸部骨折における急性期を脱した後の患者受入れを行うのが、仙台市の難しいところであるが、具体的な戦略はあるか。

【事務局】

大腿骨頸部骨折はすでに地域連携パスを使用し、他医療機関と連携を図っている。

(5) その他

- ① 公立病院経営強化プランの策定について
(健康福祉局保健衛生部からの資料を説明)
(質疑応答)

【藤森委員長】

仙台市は他の市町村に比べて、進んでいるので心配ないと思う。ぜひ、経営強化を進める良いプランを作成していただきたい。

(6) 閉会

以上

議事録の記載内容につきまして、すべて相違ありません。

令和 5 年 5 月 10 日

議事録署名委員

今西陽一郎

島村 弘宗
